NPO 法人わくわくかん 編集 〒115-0044 東京都北区赤羽南 2-6-6 TEL:03-3598-3337





http://www.wakuwakukan.net/

2018年3月号 No.204

??なぜリボン??

生まれ変わった 再生したという意味の (Reborn)。 新しく生まれ変わる 「便り」にしたくて、名付けました。



精神疾患の早期発見・早期治療を 思春期から青年期にかけ発症が多い



東京都と都精民協が主催する「精神疾患の早期発見・早期治療と最新の治療」と題する講演会が2月16日、都庁第一本庁舎大会議室で開かれた。講師の水野雅文東邦大学教授は、精神疾患の多くが思春期から青年期にかけて発症することから、症状を重篤化させないためにもその早期発見・治療の大切さを世界の動きに関連させながら強調された。

だれもが患う可能性のある精神疾患。現在の日本におけるその患者数は300万人を超えた。精神疾患はごくありふれた病気になっているが、その当事者が風邪のようには医療機関を訪ねない。早く気づいて治療期間にアクセスするかが大切だ。その疾病により失われた生命や生活の質を包括的に示すDALYs指標では、日本では男女とも15歳から44歳までの比率が高い。3万人を超えた自殺者が2万人になったという報道があったりして見落としがちだが「日本の死因」では20歳から39歳までがトップの座を占めている。

になろうとしているのは意義深いと語った。

水野さんは、精神疾患の3つの特徴として①誰でも罹る(5人に1人)、②障がいを残す(20人に1人)、③若年発症(24歳までに75%)をあげた。「心の病、はじめが肝心!」と治療開始の遅れを解消することで、未治療期間(DUP)の短縮で治療臨界期の最初の5年間に対応すれば脳の回復も早い。幻覚・妄想が出る前の対応で、発症の頓挫が起こる、つまり「危ない!」の介入が大切と強調した。「リスク状態の診断基準」として幻聴

が1~2週間出たり消えたりする

2016年の調査「本気で自殺を考 治療臨界期の最初の5年間が大事 えた」と答えた人の割合では20~

30代で30~40%もいるし、女性の比率が全世代にわたって男性より高い。「少子超高齢化社会」にあって、こうした精神疾患による社会的損失をどのように無くしていくかが大事になっていると強調された。

高知県での高校生 1 万人を対象とした調査では、統合 失調症や摂食障害という病名を知らない人が多いという。 相談する人は友だちが 60%で家族は 45%と少ない。思 春期にかかりやすい病気との理解も薄い。ようやく高校 生の授業に「予防と回復」が学生指導要綱に入ったり、 医療制度改革に「地域の中での予防」が推進されるよう (A)短期間の精神病状態の時、妄想状態の弱い段階の圧倒的に多い

(B)微弱な陽性症状の時、仕事や学校に行かなくなる(C) 遺伝的なリスクと持続的な機能低下の3つをあげ、そのいずれか1項目を満たすと約40%が1年以内に精神疾患を発症するオーストラリアの論文をあげた。

当然のことながら精神疾患の早期介入・早期発見にはメリットがあり、逆に治療が遅れるとさまざまなリスクが連鎖的に起こる。物質乱用やうつや自殺のリスクの増加、家族内の苦痛の増加、不必要な入院、自尊心や自信の喪失、マネジメントのためのコストの増大が起こる。社会的に急がれる課題が鮮明になった講演会だった。

- ◆ 3月10日(土)はたらっくす 16:00~(自立訓練室)
- ◆ 3月23日(金)職員研修会 14:00~(リボーンプロジェクト)
- ◆ 3月26日(月)現場協議会 16:30~(スカイブリッジ)
- ◆ 3月27日(火)家族懇談会

16:00~(自立訓練室)

<わくわくかん3月予定表>



就労継続支援 A 型事業

北区赤羽南 2-6-6 TEL: 03-3598-0089 FAX: 03-3598-0089

菜の花ごはん

<材料> 4人分 精白米---1 カップ 胚芽精米―1 カップ 菜の花--1/3 東 —1~2個 卵----昆布一 -3 cm角 1 枚 ー小サジ1 -小サジ1 酒-

<作り方>

- ①米はといで、酒、塩、昆 布を入れて水加減し、普通 に炊く。
- ②菜の花は流水でよく洗 い、塩ひとつまみ入れて熱 湯でゆでて水にさらし、水 気をしぼって 1 ㎝くらい の長さに切る。
- ③卵は溶きほぐし、なべで さいばし数本を使って炒 り卵にする。
- ④炊きあがった①に、②③ を混ぜて器に盛る。



春を告げる苦みと香り

菜の花はカルシウム、鉄、ビタミンCが多く含 まれている緑黄色野菜です。種類も数種出回っ ています。苦みが子どもに難しいと思われた ら、ほうれんそうやかぶと半々にするなど、混 ぜる割合を工夫したら…。

アレルギーで卵を使用できない時は、黄色い きびなどでもいいですね。

今では通年出回っていますが、やはり旬は冬 から早春にかけて。独特のほろ苦さ、香りと彩 りで、ひと足早く春の訪れを告げる緑黄色野菜 です。

カロテン、ビタミンC、B1、B2、葉酸、 カルシウム、鉄等のミネラル類を豊富に含み、 とくにビタミンCの含有量は野菜の中でもト ップクラス。体の抵抗力を高め、風邪などを予 防するほか、貧血の予防にも効果があります。



社会福祉の世界で働きたいという若い学生が実習に…

「当事者スタッフの方が主体的にいろいろ取り組んでいるのが凄い」

毎年、今頃は将来社会福祉士を取得し、社会福祉の世界 で働きたいという若い学生の方が、わくわくかんに実習に 来てくれます。

いろいろな実習生さんがいらっしゃいますが、皆さん緊 張しながらも「わくわく配食サービス」では盛付・配達・ 洗い場・事務体験などなど当事者スタッフとともに取り組 んでくれています。一緒に働いてみての学生さんの感想は、 「当事者スタッフの方が、主体的にいろいろ取り組んでい ることを凄いですね」と話す方が多いことが印象的です。 また、当事者 ST から、実習生さんにコミュニケーション をとってくれる時も多くあり、「知らない人の中に入る緊 張感のなかとても助けられました」、「本当に当事者 ST は 優しい方が多いですね」と話してくれます。

配食サービスには、いろいろな方が働いていますが、当

事者 ST の方をはじめ 非常勤 ST の何気ない 言葉かけなどいろいろ な人間同士の関係性で 何とか毎日 100 食以上 のお弁当を配達するこ とが出来ていると感謝 する毎日です。



安心して働くことのできる職場をこれからも、皆さんと 協力し合って運営していきたいと考えています。また、実 習に来てくれた学生さんが「いろいろな実習をしたけど、 わくわく配食サービスで働きたいと思いました」と就職し てくれたらうれしいですが…。そうした魅力ある事業所に してきたいものです。

自立訓練(生活訓練)事業 ボランティア響会

※響(ひびき)

〒114-0032 北区中十条 1-2-18 北区障害者福祉センター4F TEL 03-5963-6888

<新年外出報告> 洗い観音、とげぬき地蔵、庚申塚

1月19日(金) に新年の外出で巣 鴨のとげぬき地蔵 に行きました。

まず、障害者センターから歩いて 王子の都電に乗って、庚申塚で降り、 そのまま歩いてと げぬき地蔵に行き



ました。一番印象に残ったのが洗い観音像でした。観音像様にひしゃくで水をかけ(写真)、良くなる部位をなでました。

その後、遅れてついたWさんとTさんとおち合い、 ランチを巣鴨商店街で探したところ、安いそば屋があ

ったので、そこでみんなで食べました。私、Oはカレー南蛮。 Kは掛けそばを食べたところと てもおいしかったです。とくに WさんとTさんは大盛りにしていました。

自由時間に私、Oはおみやげで佃煮を買い、さらには巣鴨名物八つ目ウナギを買って食べたらとてもおいしく、楽しい時間でした。Aさんは、福福まんじゅうで売っているものが、大福のような物をイメージしていましたが、実際は中華まんじゅうでした。(汗) 皆さんとても満足されていました。

帰りは現地解散でわれわれのとKは王子で帰りました。とても充実した一日でした。 (O.K, K.T)

<ミニ外出>東十条商店街

1月10日、散歩のプログラムがありました。センター周辺をひたすら歩くプログラムです。今回の目的地は東十条商店街です。途中サミットで休けいしつつ商店街へ。

次はたい焼き屋で休けい。みんなたい焼を購入していました。風が強くとても寒かったです。そのため、 予定より短縮して帰路へ。

東十条駅近くで猫が向かってきたかと思うと突然U ターン。猫は、何をしたかったのでしょうか。その後 ほぼ予定通りでセンターに無事帰りつきました。

(H. Y. H. S)

<社会資源プログラム> リボーンプロジェクトを見学

1月24日(水)の社会資源プログラムで、ひびきと同じフロアで就労移行支援事業を行なっている「リボーンプロジェクト」の見学を行いました。

はじめにひびきの部屋で、リボーンのスタッフのHさんから、リボーンについての、くわしい話しをうかがいました。働くためにパソコン、ビジネスマナー、会計処理、簿記など色々なプログラムを、行なっているんだなぁと、私達は思いました。その後実際にリボーンプロジェクトの見学に行きました。PCのデータ入力をしている方や食券作りの作業で線に沿って、切り分けていた方がいました。

中にはこのような仕事もあるんだなぁと思いました。

みんな仲良く仕事をしていて、楽 しそうな場面もありました。

今まであまりリボーンプロジェクトのことを知らなかったメンバーは、今回知ることができて、今までより身近に感じられた方もいたようです。とても参考になりました。(A.K, S.W)



1月5日(金)新年会を行いました。前日の1月4日(木)に買い出しに行きました。

午前中はクッキングでした。メニューは雑煮、かぶのステーキ、かぼちゃのサラダ。みんなで作ったお料理はとっても美味しかったです。

午後は書き初めを行い、今年の抱負を書きました。みなさん前向きな言葉·文字を書いていてやる気がひしひしと伝わって来ました。

その後、全員でカルタ大会を行いました。みんな、一枚でも多く取ろうと身をのり出していました。結果は0さんが優勝しました。(一番大人げなくやっていました)

とても良い今年始めのイベントでした。(0.M, 0,Y)

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト



〒114-0032 東京都北区中十条 1-2-18 北区障害者福祉センター4F Tel: 03-5963-6888

障害者雇用促進セミナーに参加

会場の活気と関心の高さ



2月8日(木)に障害者雇用促進セミナーに参加しました。 会場の文京シビックホールのロビーでは、近隣の A 型・B 型事業所の製品販売が行われ、活気に溢れていました。 来場者が多く関心の高さが窺えました。

講演は法政大学の眞保智子教授による『「働き方改革」で精神障害者雇用を実現する』と、株式会社アヴァンティスタッフの内田博之総務課長による『障害者雇用~精神・

発達障がいのある人たちと共に~』というテーマで行なわれました。両者とも精神障がい者の方を雇用するための配慮点や現場での取り組み、採用のポイント、働き続けるために大切な事などを話して下さいました。精神障がいの方は必要な配慮をすれば、共に働いて行く頼もしい仲間となれる事を企業に印象付ける内容になっていました。

<参加者の感想>

- ・アヴァンティスタッフ(内田博之様)の講演は、とても素晴らしかったです。 気持ちの面を大切にする内田様の人がらが、感じられました。 当事者の気持ちと同じ目線でいて下さるので安心感が強い職場でしょう。 1 ミリへの挑戦という事で人それぞれ違うという事が職場でそれぞれの適した仕事を与えられるので勤続年数が精神でも発達でも永く勤められる人が多い理由がわかります。 (S.H)
- ・お話を聞かせていただいて、自分を分析してしることが 大切だなと思いました。(U.F)
- ・慌てたり遅れたりと充分に聞く事が出来たか自信がありませんが、現在リボーンにまともに来れていない状態が続いているので自分の中のモヤモヤを早く解決出来るようにし

たいと思いました。(K.S)

- ・講演会後半の「1 ミリでも成長する部分を大切にする」という言葉はとても良いと思った。病があるとマイナスな部分ばかりに目が行きがちであるが、そうではなくポジティブな部分に注目するのは、必要なことであると感じた。「困っているのは、病を抱えているご本人である」という言葉も、その通りだと感じた。相手の立場に立って、接することは、とても大切だと思う。(K.H)
- ・自立をめざすためには、自分の発言、選択、行動の責任を持ったり、金銭をうまく管理することが一番大切だと思いました。これからの仕事や生活でこれらを生かしたいです。 (K.S)

東京都精神保健福祉相談事業講演会に参加準備・設営から当日のスタッフまで

2月16日(金)に、東京都庁第一庁舎5階の 大ホールで行われた、東京都精神保健福祉 相談事業講演会の準備・設営を行ないました。 リボーンプロジェクトでは事前の準備として、 広報のためのチラシの印刷・発送や、当日使 用する掲示物の作成、資料の印刷・帳合、物 品準備、会場下見などを行なってきました。そ



して当日は 8 名の訓練生がスタッフとして 設営・運営に参加しました。会場設営、受 付(5 階)、入庁手続受付(1 階)、音響・照明 の4つの担当に分かれて、設営や来場者 対応を行ないました。忙しい時間帯もあり ましたが、全員で協力して無事に終える事 ができました。

<参加者の感想>

・午前中の準備では、皆で協力して、のりきることが出来 て良かったと思う。1 人では時間がかかることでも、皆で 協力すれば、きちんと準備が出来るので、普段から意識

して、自分が出来る事と、協力出来る所を意識し、考えながら、作業に取り組みたいと思う。 (K.H)

・1 階受付誘導は、行列ができる ほど大勢のお客様が来ました。 一人一人誘導するのは、とても大変でした。(K.S)

・ちょうあい(帳合)もたいへんでした。いいけいけんになりました。ひとがおおくてきんちょうし

ました。(O.T)

・音響・照明係は今回で 2 回目の 係になりますが、音響ブースの中 は1度目の時より人は少なく、業 務に集中できました(Y.E)



(毎月3回8の日発行) 通巻第 6024号

第11回 わくわくかん 家族懇談会のお知らせ

開催日時: 2018年3月27日(火)16:00~(予定)

場 所: 事業所見学(予定)

内 容: 当事者が語る③ (詳細は家族懇談会のご案内にて) 個人面談: 17:00~ 個別相談会 (事前に申し込みください) 連 絡 先: TEL 03-5963-6888 FAX 03-3906-9997



当事者の会「はるじおん」 ~これまで・いま・これから~

■「はるじおん」とは

当事者の会「はるじおん」は、 働く当事者が話し合える・当事 者の声を伝える・新たな就労の 場をつくることを目的に、 2014 年8月に設立されました。

毎月第3土曜に集まりお茶やお菓子をいただきながら、事前に決めておいたテーマやフリーテーマについて話し合ったり、発行している雑誌『雑草魂』に関する様々な活動を行ったりしています。



2015 年度は当事者の声を伝えることを目指した活動が主体となりました。東京都への要望

書の内容を話し合ったり、講師をお招きして起業について学んだりといった活動を重ねる中で、「直接私たちの声を届けたい」との思いが高まり、雑誌を作ることになりました。タイトルは『雑草魂』に決まりました。

2016 年度以降は『雑草魂』に関する活動を中心にしながら、毎月のフリートーク、スポーツ、バリアフリー映画館での映画鑑賞といった活動を実施してきま



した。

■「はるじおん」のこれから

「はるじおん」のメンバーに、 これから「はるじおん」でやっ てみたいこと・「はるじおん」に 期待することを聞いてみました。

- ボウリング大会をしてみたい (S.Y)
- ・去年は一つ夢を叶えることができた年でした。今年も一つで良いから花を咲かせたいです。 (K,K)
- ・私は精神障がい者のために居 場所働く場所"を提供する場所 になってもらうことをはるじお んに期待しています。未だ働く

場所の形にはなっていませんが、最終目標は社会的 事業所です。(P.N.ゆづる)

- 現状維持。まずは今の活動をしっかりと。(H.H)
- スポーツイベントで体を動かしたい。運動する機会がなかなかないので。(K.T)

(M.K)

2月10日のはたらっくすは5名の参加で、わくわくかんで開かれました。 皆それぞれに自分に合った働く場を得

られたら良いな、と思いました。お正月前後から私の 周りで自業自得ですがプレッシャーになる事が続き ました。

①敢えてハニートラップと言いますが、スナックにハマりかけました。そのために、自由に使えるお金が毎月底をつきました。スナック通いを思い切って止めて、お金にも余裕が出来て良かったです。私達当事者が、どういう心理で夜の世界にハマって行くか、がよく判りました。②元カノと再び付き合う事にした翌日に完全に別れました。「やはりこの人はダメだ」と思

2月はたらっくす報告

いました。その人の身内に連日でトラ ブルが起こっていたのを判っていて 「別れよう」と更にお互いに大変にプ

レッシャーになる事を告げました。③「今年は部屋を 片付けよう」と自分に誓ったのにも関わらず、部屋は 全く綺麗になりません。「本当にお前はヘルパーか? お前がヘルパーを入れろ」状態です。片付けを始める と、一晩掛かっても終りません。以上の①~③等で、 調子が落ちて早引きが2回ありました。周りは大変に 気遣ってくれて嬉しいですし、感謝です。私が入院す るのだけは絶対に避けたいので、自分の調子に敏感に 的確に対応したいです。

都電やバスに乗って外出できた!

母親を思い出したとげぬき地蔵

ボランティア響会(自立訓練)のメンバーTさんは、昨年 11 月にあった年に一度のスペシャル外出に 参加したことに続いて、今回通常の外出プログラムに初めて参加され、巣鴨にあるとげぬき地蔵に行って きました!その時の感想などを色々とお聞きしました。

• 今回外出プログラムに参 加するきっかけはどういう ものでしたか?

スタッフKさんの強い勧 めが大きかったです。ひび きでの集合時間を午前 11 時までにしてくれて、これ なら参加できると思いまし

• 外出プログラムに参加す るうえで、不安などはあり ましたか?

巣鴨に行く際の都電やバ

スの乗り降りが、大変不安でしたが、スタッフWさん に乗り降りを手伝ってもらい、全て順調にいきまし

Tさんは巣鴨のとげぬき地蔵について、何か思い出 がありますか?

母親が生きていた時、母親に付き添って何度か行っ たことがあります。20年位前のことだと思います。 今回はそれ以来久しぶりに行ったことになります。

• 巣鴨では、どういうことをされましたか?

とげぬき地蔵にお参りし、観音様をタオルで洗いま した。とげぬき地蔵では、昔母親が買ってきてくれた ことがある「おすがた」を飲みました。お地蔵の紙で



できたお守りで、体にいい とのことです。紙を飲むと いうことで、少しためらっ ていましたが、隣にいた方 が自分も小さい頃に飲んだ ことがあると言って強く勧 めてくれたので、本当なん だと思い、そのまま飲み込 みました。

お昼ご飯は、蕎麦屋さん で大盛りのカレー南蛮を食 べました。大変美味しかっ たです。

お昼ご飯と参拝の後は、

商店街を散策しました。目に効くというヤツメウナギ を、初めて食べました。苦味がありましたが、意外に 美味しかったです。食べることはありませんでした が、名物の塩大福の店が何軒もありました。

・巣鴨に行っての感想はどうでしたか?

ひびきに来て2年半以上経ちますが、スペシャル外 出以外の通常の外出プログラムは今回が初めてで、不 安はありましたが、行ってみてとても楽しかったで す。また、巣鴨に行って母親を思い出しました。母親 は巣鴨に年中行っていたので。すごく懐かしさを感じ ました。

歌のボランティア、お見舞いの病院訪問、活発な家族会と多彩

外とのつながりの活動内容は、横浜ピアスタッフ協会(YP

S)、リカバリー・パレード、市精連、全国ピアスタッフの集い

など多彩にわたります。課題としてずいぶん活動の広がったピ

アスタッフ、ピアサポーター、ピア活動のあり方、また一国一

(写真は高岩寺・洗い観音前の ↑ さん)

共同連関東ブロックのマラソントーク

共同連関東ブロックのマラソントーク&交流会が2月10日午 後、東京都多摩市内の NPO 法人あしたや共協働企画の見学をし たあと行われました。

第一部は、多摩市永山公民館(ベルブ永山)3階にある「は らっぱ」に集合、店舗見学のあと、団地内にある食品販売の

「あしたや」と古本と手作り布販 売の「あしたやみどり」の「共に 働く」実践見学を行いました。

第二部は、ベルブ永山4階の視 聴覚室で、活動報告が 2 つ行われ 利用者から職員に シャロームの家

あしたや共働企画「共に働く」を大事に

です。

城になりがちな事業所間の活発な連携、体力があるのに諸事情 で退院できない当事者を地域に迎 えるための精神科病院とのつなが りの重要性が強調された。

> 続いて 21 年目になるあしたや 共働企画の岩間有希さんと湯田仁

美さんが、3店舗にして仕事を増やしてきたこれまでを語った。 今や 50 人の中で手帳を持つ人は 21 人、「共に働く場」として定 例会を大事にし、同一賃金にこだわる独自の仕組み、世代交代 でスムースな引き継ぎをめざす課題を語った。湯田さんは 16歳 から働き、夜は定時制高校に学び、豆の選別と袋入れ、配達な どで過ごす元気な姿のスライドを映して報告した。

最後に三田事務局次長から今年の共同連全国大会は、7 月に モンゴルで開催されるアジア障がい者交流大会に関東ブロック からも積極的に派遣してほしいの提起を受けて議論した。

クッキー・パウンドケーキの製造販売、草刈、領収書仕訳、普 及啓発事業等での謝礼、不定期の荷物撤去等がある。工賃以外 の活動内容は、美術教室、街場の作業療法 (マインドフルネス)、

横浜のシャロームの家から小森施設長が主に精神疾患の多い

35 名、みんなが元気で働けるわけではないがとしながら就労継

続支援B型事業を行なっている。「工賃単価を最低賃金並みに」

「ピアスタッフを雇うと業績が上がる」の 2 大標語があるとの

こと。利用者から職員になるユニークな職場である。活動内容

は、工賃獲得のためのメール便配達が月70万円を筆頭に清掃、

"気づき"を引きだすことの大切さ

先日、明星大学で行われた「発達障害のある人へ のコーチング」についての講演を拝聴しました。まず アメリカ・インディアナ州の children's Resource Group に勤務しているデイヴィッド・R・パーカー氏 から「アメリカは AD/HD (注意欠如・多動症) が多 く、アスペルガー症候群の多い日本とは状況が違う」

と踏まえた上で、コー チングとは「①行動を 前へ進める ②学びを

発達障害のある人へのコーチング

深める」という2つの目標があるとお話 ししていました。

つまり、ご本人たちは元々力を持って いるという考え方の元、本人達の"気づ き"を引きだす手法であり、「コーチ= 指導する」という考え方ではないという ことだそうです。コーチ自身は答えを持 っているのではなく、まずご本人を信 じ、答えはご本人が持っているという考 えの中かかわることが大切だと話してい ました。目指すのは、ご本人自身の「セ ルフコントロールの増加」「不安の軽 減」「問題解決能力の向上」なので

発達障がいをお持ちの方の多くは、得意なことにつ いては人並み以上の優れた才能があり能力が高い分、 苦手と感じるものは小学生低学年レベルの難易度でも 困難さを感じます。彼らはこの「苦手」の部分が悪目

立ちしてしまい、平均を求める傾向の強い人にとって は「出来ない人」とレッテルを貼ってしまいがちにな ります。そうすると、彼らに「出来ないなら教えてあ げよう」という上から目線の態度になりがちです。前 述でもあるようにパーカー氏は「信じる」「気づきを 引きだす」ことが大切だと話していました。つまり、

「指導する・教える」こ とは、ご本人自身の能力 向上にはつながりにくい

との見解であると言えるのではないでしょ うか。

私は、多くの発達障がいをお持ちの当事 者の方と関わってきました。彼らの多く は、嘘のつけない素直でまっすぐな性格の 持ち主が多かったと感じます。その性格ゆ えに他者と衝突することもあり、コミュニ ケーションが苦手とおっしゃる方もいまし た。だからこそ、「これが正解だ」と言わ れれば、その通りに行動するでしょう。

しかし、それでいいのでしょうか。私た ちは意志を持ち、自己選択・決定を繰り 返しながら生きてきています。時には成

功し、失敗する。それは障がいあってもなくても同じ なはずです。"気づく"には時間はかかります。でも 自分で気づいたことは力になります。彼らを信じ、彼 らが気づけるよう考えを引きだす、それこそがコーチ ングではないでしょうか。 (K.F)

ているメンバーが多くてスムーズに設置することができまし

た。また、例年通り、参加団体から事前に注文を受けてお弁

当も販売しました。今年は注文数がかなり減ってしまったの



デイヴィッド・パーカー氏

2月12日(月・祝)に北とぴあで開催された「ささえあい フェスタ」に参加してきました。ささえあいフェスタは、北 社協が中心になって年に 1 回開かれるイベントで、子育ての グループや高齢者のグループ、障がい者の支援団体など北区

内で活動している様々なグルー プ・団体が一堂に会する、かなり 大きなイベントです。内容も、ス

ささえあいフェスタに参加して

は、残念でした。

販売では、イベントでいつ も販売しているもの以外に、 ペットボトルのお茶とドリッ

テージ発表や体験コーナー、ポスター展示、模擬店など盛り だくさんで、当日は天気が良かったこともあり、非常に多く の方がいらっしゃって、13Fのフロアは人でぎっしりとなり ました。

わくわくかんは、当日午前 9 時から設営のお手伝いをし、 その後 10 時半から午後 3 時までA型で作ったお惣菜や焼き菓 子、リボーンとひびきで製作した小物などを販売しました。 設営では 7 名で、主にパネルの設置を担当しましたが、慣れ

プコーヒーを販売しました。お茶は飛ぶように売れ、48 本が 1時間ほどで売り切れてしまいました。ドリップコーヒーは、 全くの予想外で、注文が殺到しました。家庭用のコーヒーメ ーカーで少量ずつドリップしていくので、10 分近くかけて 5 杯作るのがやっとなのですが、次から次へと注文が押し寄せ、 てんやわんやとなりました。皆さん仲良しのグループで、コ ーヒーを飲みながら談笑したい方が大変多かったということ なのですが、次回に向けての反省となりました。

都のネットカフェ難民は4千人30代が4割近く不安定就労7割越える

10年前の2008年、インターネットカフェや漫画喫茶で寝泊まりしながら不安定就労に従事する「住居喪失不安定就労」の問題が衝撃的な形で、大阪個室ビデオ店放火事件として起こり、16人が死亡した。あれから10年、東京都は1月、「住居喪失不安定就労等の実態に関する調査報告書」

を発表した。東京の実相が 浮かび上がった。

東京都内において、インターネットカフェ・漫画喫茶・サウナ・カプセルホテル等の昼夜滞在可能な店舗で寝泊りしながら不安定就労に従事する「住居喪失不安定就労者」等の実態調査調査が実施された。502店舗/224店舗より回答(回

答率 44.2%)。そこで浮かび上がったのは、都内の平日オールナイト利用者は 15,300 人、住居を持たない難民は4千人、30代が4割近く、7割を超える人たちは不安定就労の人たちだった。その概略は以下の通り。

「住居喪失」をオールナイト利用の理由とする利用 者の割合

オールナイト利用の理由が、「現在『住居』がなく、寝泊りするために利用」である者(=住居喪失者)は、25.8%であった。

研修を受講する動機は前職をやめ てから約1年が経っていたので、ブ ランクを埋めることと資格を取得し

て就職活動のアピールの材料になるぐらいの気持ちでした。

研修が始まり次第に面白くなってきました。介護職の心構え、身体や心の仕組み、老化や障害や病気について、生活について、リハビリテーション、制度、介護実技演習、介護実習、介護施設見学等々。私生活でも役に立つことを学ぶことができました。

講師が章ごとに変わり外部からの講師も3名いて深く学ぶことができました。

受講生はリボーンプロジェクトと就労支援センターの利用者とわくわくかんの職員が2名でした。本当に職員も利用者も関係なく和気あいあいとしていました。特に介護実技演習の時はもちろん真剣にしていましたが笑いがこぼれる場面もありました。

最後のほうの授業で振り返りをしました。研修を受講する 前と研修を修了した後では介護に関するイメージが驚くほど

住居喪失不安定就労者の割合

「住居喪失」を利用の理由とする者のうち、「不安定就労者」(「派遣労働者」+「契約社員」+「パート・アルバイト」)は75.8%であった。

住居喪失不安定就労者数の推計値

オールナイト利用者概数約 15.300 人 のうち、オールナイト利用する 「住居喪失者」は東京都全体で 1 日あたり約 4,000 人(オールナイト 利用者に占める構成比 25.8%)、そ のうち「住居喪失不安定就労者」 は約 3,000 人(住居喪失者に占める 構成比 75.8%)と推計される。

基本的属性(年齢構成)

住居喪失者等(※)の年齢は、 「30~39歳」(38.6%)が最も多 く、「50~59歳」(28.9%)が続

月に1日未満 無回答 0.3% 週に1~2日 2日 2日 24.4% 週に1~2日 2日 24.4% 週に3~4日 程度 55.4%

オールナイト利用の頻度

へ。 夜間滞在時の居場所

昼夜滞在可能な店舗の利用頻度

「週に3~4日程度以上」を昼夜滞在可能な店舗で 寝泊まりする者が9割(90.1%)を占める。

路上で寝泊まりする頻度

寝泊まりに路上を利用している者(住居喪失者等の43.8%)が、路上を利用する頻度は「週に $1\sim2$ 日程度」が57.2%で最も多く、これに「月に $1\sim2$ 日程度」(22.0%)が続く。

介護職員初任者研修を修了して

良くなりました。

ハードワークな割には賃金が安 いというイメージが、介護職のあ

るべき心構えと技術面をしっかりと身につければ立派な専門職だと思うようになりました。介護サービスの利用者さんのイメージは寝たきりや認知症の高齢者でしたが、老化や障害でできないことが増えたけど尊厳を持って自分のできることはする自立した高齢者だと思うようになりました。

介護という仕事に魅力を感じましたが、人を扱うので責任が重い仕事だと痛感しました。これから介護職をするのかどうかはわかりませんが、130時間の研修を修了して試験に合格して資格を取得したことは自信になりました。また、世の中を見る目が少しやさしくなれた気がします。それが一番の収穫かもしれません。

皆さんも介護職員初任者研修を受講する機会がありましたら迷わずに受けてみたらどうでしょうか。もしかしたら私のように人生観が良くなるかもしれません。 (T.K)

スペインで社会的連帯経済の大会10月に開催 ビルバオ大会に向けて日本実行委員会開く

2014年、ソウル市から発せられた社会的連帯経済の呼びか ②ビルバオ大会への発表テーマと発表者を組織する。 けは国際的な反響を呼び、2016年、カナダのモントリオール 今回の発表テーマは、とりわけ地方自治体と市民団体とが結 を経て、今年はスペインで10月に開催されます。そのため の GSEF (Global Social Economy Forum) 2018 ビルバオ大会 を追究する。 に向けての日本実行委員会の形成が2月1日、東京・中野で 第1回の会合が持たれ、主だった日本の関係する社会団体が 参加しました。

ソウル宣言の会の若森代表は次のように提案しました。 ①国内の各界、各層に広く大会の意義をお知らせする。 特に、地方自治体関係者の理解と参加を促し、国政含む議員 共有していく。 の参加も追求する。それぞれが関係する議員や興味を持って いる議員を出し合い、直接働きがけを行う。そのことによりわれました。 今後の運動につなげる。

びついた活動に重きがなされており、その趣旨に沿った報告

③ビルバオ大会への参加者を組織する。

大会参加の概略を固めた上で、呼びかけ文を準備して参加者 を募集する。特に、地方自治体、議員、若手実践者・研究 者への参加の働きを強める。

④ビルバオ大会の成果を大会後、多くの方々、団体と幅広く

また、大会のメインテーマとサブテーマについて議論が行

GSEF2018 ビルバオ大会のテーマ

公共政策の

共同創出

包摂的で持

続可能な地

域創生への

価値と競争

I フォーラムのテーマについて

フォーラムでは中心的テーマとして次の三点に焦点を当てる。 価値: 社会的連帯経済を育てる新しい成長モデルの柱と根っ こ; 自己管理、相互支援、自律性、平等性、民主性、経 済的連帯、および社会と環境へ責任

競争力:競争力は、社会的連帯経済と無関係ではなく、む しろその価値の一部を測るパラメータである と、示すこと。競争力を価値との結びつき、 言いかえれば、社会的市場経済は、社会的連 帯経済を広く受け入れさせるベースであ

包摂的で持続可能な地域創生:社会的連帯経

済は、困難に直面している地 域開発を経済活動の持続可 能な成長と結びつけること ができる能力をもつことを 示し、その形態、複数の文 化、世代などに多様化して いる社会の要求にも関心を向け させている。

社会的連帯 経済機関の 成長に向け た課題

Ⅱ GSEFのテーマ、サブテーマ

テーマ:包摂的で持続可能な地域創生への価値と競争力

サブテーマ:1 公共政策の共同創出

- 2 地域の改変に対する社会的連帯経済の
- 3. 社会的連帯経済機関の成長に向けた課題
- 4.仕事と雇用の将来: SE の役割

Ⅲ 応募要項における募集項目

- 1 公共政策の共同創出
 - 1.1. 地方自治体と社会的連帯経済主体の連携戦略

1.2.公共調達と社会的条項

- 1.3. 公共政策における社会的連帯経済
- 1.4. コミュニティ政策における社会的連帯経済
- 1.5. 国連の持続可能な開発目標「アジェンダ 2030」での社会的 連帯経済
 - 1.6. 危機的状況 (経済危機、制度危機) における社会的連 帯経済
 - 2 地域の改変に対する社会的連帯経済の貢献
 - 2.1. 起業精神と社会的連帯経済
 - 2.2. 社会的責任のある領域
 - 2.3. 社会革新の生態系.

2.4.社会的連帯経済と市民社会の連携: 相互転換.

地域の改変 に対する社 会的連帯経 済の貢献

- 2.5.社会的連帯経済とその和解プ ロセスへの貢献
- 2.6. 地域開発のバスク・システ
- 2.7. モンドラゴンの例
- 3. 社会的連帯経済機関の成長に向けた
- 3.1. 社会的連帯経済機関における国際視点: 融資調達制度、透明性、規制の枠組み
- 3.2. 社会的連帯経済機関同士の連携経験
- 3.3. 社会的連帯経済を始めるための資金準備と他

の手段

- 3.4. 社会的連帯経済機関の統治モデルの民主化
- 3.5.組織の価値を金額化 興味あるグループ・アプローチ
- 4. 仕事と雇用の将来: SE の役割
- 4.1.社会における仕事の価値.
- 4.2. 生産的と再生産的との二項問題.
- 4.3.技術の崩壊と雇用の消失.
- 4.4.社会的連帯経済の未来を保証する教育と若い世代.
- 4.5.社会的労働の包摂と社会的連帯経済
- 4.6. 社会的連帯経済を通じてのビジネス改変.

の未来-社会 的連帯経済 の役割

仕事と雇用

柳澤寿男の「福祉映画5部作」に脚光

映画監督・柳澤寿男の「福祉映画5部作」に、今、光が当たっている。2月3日から16日まで渋谷・シネマヴェーラで多くの作品が連続上映のほか、2月10日には日比谷で『夜明け前の子どもたち』が伊勢真一監督の『やさしくなあに~奈緒ちゃんと家族の35年』と上映された。

柳澤寿男(1916~1999)は、松竹に入社し1940年 劇映画『安來ばやし』でデビューした。亀井文夫の「小林 一茶」に感銘を受け記録映画に移る。戦後から高度成長期 に日本映画社や岩波映画などで多くの記録映画・PR 映画 を演出した地味な人。

晩年に企業宣伝の仕事を辞め、『夜明け前の子どもたち』、 『ぼくのなかの夜と朝』、

『甘えることは許されない』、『そっちやない、こ

50年前の「この子らを世の光に」蘇みがえる

っちや コミュニティケアへの道』、『風とゆききし』の「社会福祉映画5部作」の自主製作をおこなった。今回の「戦後映画史を生きる柳澤寿男監督特集」はこの5部作と記録映画を一挙上映、あらためて障害者を通して人間が自由に生きることとは何かを問う機会となった。

1968 年の『夜明け前の子どもたち』は、「この子らに世の光を」ではなく「この子らを世の光に」で知られる糸賀一夫が 1963 年に開設した滋賀県の重症心身障害児療育施設「びわこ学園」の子どもたちと職員たちの記録だ。当時の単なる医療でもなく単なる教育でもない"療育"の

就労支援センター北わくわくかん 登録者(2018年1月末)735名 就職者3名(事務・配送助手・清掃)

先月 ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・(社会・飯田橋・東京障害者職業センター・(社福)月山福祉会・NPO法人太陽とはの会・NPO法人あしたや共働企画・シ会・の日ームの家・結・職場参加を進めるや・東京都障がい者就業支援事業所の会・協和冷熱工業株式会社・東京しごと財団・町田の丘学園・㈱ECA・会・日本福祉教育専門学校・戸田中央看護専門学校・デリハビリテーション専門学校

等、お世話になりました。

試みの貴重な記録であるが、トップシーンの 光を感じる少年の眼の きらめきに引き込まれる。少年の施設入所に あたって医師から「解 剖承諾書」を求められ、 それを拒否する母親。 社会と隔てる「白い長 い道」の廊下を通って 肉親が消える。後は24



『夜明け前の子どもたち』

時間の長期の施設暮ら し。紐をつけられた少年 の葛藤。医師やスタッフ

はしてあげるのではなく「かかわりという関係」をどうつくるかに苦闘する。施設の外に出てのプールづくりのための石運び。そのはてしない繰り返しの中で育つ自覚や協同。他方で2年間にスタッフ39人が辞める過酷な環境。「なんでやめる?」の当事者の不安の声。哀しさ、さびしさのなか、育っていく当事者への自覚へのカメラの眼がすごい。

50 年前の「幻の名作」がよみがえった意味は、2 年前の「やまゆり園事件」が、改めて重度障がい者の脱施設で地域で暮らせるまちづくりを問い直している中、この映画はそれらの課題をしっかり議論できる機会を与えている。

グループホームわくわくかん

女性ホームでポンプの故障により水道が止まってしまうという大事件が起こりました。夜に世話人が訪問したら、「さんより「水が止まっている!」。この時間では業者に電話する事も出来ず、コンビニでケース単位の水を購入。1階の入居者から「3ケースは無いと困る」との言葉に、2階の分も合せて、コンビニを6往復。2階の入居者に状況を説明したら、Nさんは「運ぶの手伝います!」、Sさんからは「水道局夜間対応に電話してみます!」との言葉。新しいポンプが来るまでの間、1階の入居者さんは水道が止まる度、応急処置を頑張ってくれました。休日、職員が休みの日に至っては、「2階の人が困るから」と言う理由でご自身の予定を後回しにしてくださいました。

▼編集後記▼

石牟礼道子さんが亡くなられた。1969年、ノンフィクション『苦界浄土』でチッソの水俣病を告発したその筆力は、患者たちの声にならない声となって資本の利潤追及をあばいた。またそれ以前の谷川雁・森崎和江・上野英信らでつくった「サークル村」は民衆共同体の想念が持つ底力を示した。

現代の大都・東京に不知火海からうたせ船をゆっくり曳いて、石牟礼道子が演じた月夜の海に船を焼く儀式に出かけた時の感動が忘れられない。

今年は明治維新 150 年、それをプラス価値のように信仰しがちな風潮があるが、石牟礼はそれを批判、「近代の認識論やひろく近代知によって失われた全体性、複雑性、関係性、多様性、内発性を回復しようとする」(熊本大学・岩岡中正)民衆運動をつらぬいた。その言葉の持つ意識性を情念に羽化させて〈弱者の強さ〉の生命力を高らかに歌った稀有な人である。 合掌。